



松木倭帆《栓付モールドカンター》



松木倭帆《垂描文鉢》



松木倭帆《丸文双耳一輪挿》



松木倭帆《ワイングラス》

Funaki Shizuko + Hamada Yoshio
What the Glass of Vessels Tells Us

うつつわのガラスが

透き通った表面に、揺らめく色彩一。ガラスは、陶と異なる素材の魅力に満ちています。今夏、益子陶芸美術館ではふたりのガラス作家の作品を展覧いたします。

島根県の布志名焼窯元に生まれた松木倭帆(1935~2013)は、大学卒業後に大阪の清水硝子製造所に入り、吹きガラスの修業を始めました。その後各務クリスタル製作所などを経て1987年、広島県神辺町(現・福山市)に自身の工房「グラスヒュッテ」を設立し、一貫して普段使いのうつつわを追求しました。濱田庄司の五男として栃木県益子町に生まれた濱田能生(1944~2011)は、多摩美術大学彫刻科卒業後、1969年から3年間イギリスの王立美術大学(ロイヤル・カレッジ・オブ・アート)工業硝子科で学びます。帰国後は栃木県鹿沼市に築炉し創作を続けました。

松木のワイングラスや花瓶には、日用にふさわしい清潔な美しさとともに、長年培われた確かな技術と、かたちを巧みにとらえる作家の繊細な感性が息づいています。一方で、瑠璃や銀黄のガラスを基調にした濱田の作品は、全体にゆるやかな曲線と量感をそなえ、時に陶表現との境界を問うような創意に溢れています。ともに日本の暮らしに溶け込むガラス器を求めながらも、両者の作品からは、創作をめぐる意識の違いや対照的な造形の展開がうかがえます。本展では、それぞれの代表的な作品を約60点ずつ展示します。各々の作品世界の真髄をどうぞお楽しみください。

物語ること 松木倭帆と濱田能生



濱田能生《瑠璃硝子巻紐花瓶》



濱田能生《銀黄硝子墨流花瓶》



濱田能生《瑠璃硝子波紋花瓶》



濱田能生《倫敦硝子》(英国留学時代作)

ギャラリートーク ◎「松木倭帆のガラス」8月5日(土) 諸山正則(東京国立近代美術館特任研究員)
◎「濱田能生の瑠璃」9月23日(土・祝) 当館学芸員
いずれも14時~ 展示室にて 予約不要、要観覧券

次回展予定 「瀧田 一展」10月8日(日) - 2018年1月14日(日)

交通：【バス】東武宇都宮駅、JR宇都宮駅西口14番バス乗り場から東野バス益子行、または秋葉原駅より茨城交通高速バス「関東やきものライナー」笠間・益子行、陶芸メッセ入口下車徒歩2分。【JR】小山駅から水戸線下館駅下車、下館駅から真岡鐵道益子駅下車徒歩25分。【自動車】常磐自動車道友部JCT経由、北関東自動車道桜川筑西ICから20分。東北自動車道栃木都賀JCT経由、北関東自動車道真岡ICから25分。

益子陶芸美術館 陶芸メッセ・益子

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021 TEL. 0285-72-7555 <http://www.mashiko-museum.jp>

